

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

| | | |
|----------|------------|-----------------|
| 基本目標 | 3 | 人を育み未来につなぐまちづくり |
| 施策 | 17 | 子どもの教育の充実 |
| 施策主管部等 | 教育委員会 | |
| 評価責任者 | 豊岡 勝敏 教育部長 | |
| 評価シート作成者 | 大澤 浩 教育次長 | |

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

| 施策の目的(総合計画実施計画から転記) | 施策評価全体を踏まえた評価責任者意見 |
|--|---|
| 子ども一人ひとりの個性をいかし、学力を定着させ、生きる力を育むことができるように、学校や家庭、地域などが連携しながら、子どもの教育の充実と健全な育成を図る。 | 盛岡市学校教育の目標を、「子どもたち一人一人に、自立して社会で生きていくための基礎を育む」とし、全市的な取組を総合的に進めており、一定の効果が出ているものと認識している。 成果指標としている小中学校の学力については、学力向上推進事業による授業改善等の取組により、全ての指標で全国水準を上回る傾向が維持され、体力運動能力については、平成29年度に比べ改善された項目が増加している。しかし、学力、体力運動能力とも、なお課題があることから、要因を分析しながら、引き続き全市的な取組を展開していく必要がある。 |

施策の概要

| 主な取組内容 |
|--|
| 教員の指導力向上のための取組を行い、児童生徒の学力向上を図るとともに、道徳教育・先人教育の充実などにより、豊かな心の育成を進めた。 また、スクールアシスタントや不登校生徒等対策相談員を配置し、個別に配慮が必要な児童生徒への支援に取り組んだ。 学校施設については、グラウンド整備工事、屋内運動場大規模改修工事を行ったほか、適切な維持保全に努めた。 |

| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | 意図(対象をどのようにしたいのか) |
|--------------------|---|
| 小中学生 | 学力の向上が図られる。 心身ともに健全育成が図られる。 |
| 幼児 | 健やかな成長が図られる。 |
| 高校生 | 学力の向上が図られる。 生徒一人一人の希望に沿った進路の実現が図られる。 |
| 教員 | 誠実公正でかつ指導力が向上されている。 |
| 小中学校施設等 | 充実した教育環境が整備され、良好に保たれている。 |

施策の成果指標の状況・評価

| 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | |
|----------|-----------------------------------|------------|------------|----------------------------|-------|
| 指標① | 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:国語】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 110.6 | R1目標値 | 113.0 | R6目標値 | 113.0 |
| | | | | | |
| 指標② | 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【小学校4年生:算数】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 108.4 | R1目標値 | 110.0 | R6目標値 | 110.0 |
| | | | | | |
| 指標③ | 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:国語】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 103.8 | R1目標値 | 107.0 | R6目標値 | 107.0 |
| | | | | | |
| 指標④ | 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:数学】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 102.2 | R1目標値 | 105.0 | R6目標値 | 105.0 |
| | | | | | |
| 指標⑤ | 小中学校学力検査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:英語】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | ○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み) | |
| 当初値(H25) | 103.2 | R1目標値 | 105.0 | R6目標値 | 105.0 |
| | | | | | |
| 指標⑥ | 体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:男】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 97.8 | R1目標値 | 101.0 | R6目標値 | 101.0 |
| | | | | | |

| 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | | | |
|---|----------------------------------|------------|------------|----------------------------|-------|-------|--|
| 指標⑦ | 体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【小学校5年生:女】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | ○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み) | | | |
| 当初値 | 25.0 | 100.5 | R1目標値 | 101.0 | R6目標値 | 101.0 | |
| | | | | | | | |
| <p>・握力(筋力)と上体起こし(筋力・筋持久力), 50m走(走力)が全国水準を下回っているものの, その他の5種目において全国水準を上回る結果となった。特にソフトボール投げが大きく伸びており, SAQTレーニングの取組とともに, 教育研究所における投運動に係る研究成果の普及に努めたことがその要因の一つと考えられる。</p> | | | | | | | |
| 指標⑧ | 体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:男】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | ○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み) | | | |
| 当初値(H25) | 100.4 | 100.4 | R1目標値 | 102.0 | R6目標値 | 102.0 | |
| | | | | | | | |
| <p>・20mシャトルラン(全身持久力)と50m走(走力), 反復横とび(敏捷性)が全国平均を下回っているものの, その他の5種目において全国平均を上回る結果となった。特に, 長座体前屈(柔軟性)の結果が向上している。体育の授業において, 準備運動で敏捷性に係る運動を取り入れたり, 正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れたりするなど, 指導改善を推進する必要がある。</p> | | | | | | | |
| 指標⑨ | 体力運動能力調査の全国水準(100)との比較【中学校2年生:女】 | 単位 ポイント | 目指す方向 ↗ | ○ 順調に進捗している(R1目標値を達成する見込み) | | | |
| 当初値(H25) | 100.2 | 100.2 | R1目標値 | 102.0 | R6目標値 | 102.0 | |
| | | | | | | | |
| <p>・50m走(走力)と反復横とび(敏捷性)が全国水準を下回っているものの, その他の6種目において, 全国水準を上回る結果となった。特に, 長座体前屈(柔軟性)とハンドボール投げ(投力)の結果が向上している。体育の授業において, 準備運動で敏捷性に係る運動を取り入れたり, 正しい姿勢で走ることを意識した活動を取り入れたりするなど, 指導改善を推進する必要がある。</p> | | | | | | | |
| 指標⑩ | | 単位 | 目指す方向 | | | | |
| 当初値(H25) | | | R1目標値 | | R6目標値 | | |

進捗の評価(3段階):◎非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

| 小 施 策 | | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|-------|-----------|---|---|
| 17-1 | 小中学校教育の充実 | <p>○学力検査</p> <p>1 小学校4年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査(全国学調)及び数研式全国標準学力検査(NRT検査)の結果において, いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査において大領域の状況を平成29年度と比較すると, 「話すこと・聞くこと」「読むこと」領域で3ポイント, 「書くこと」領域で4ポイント下回った。 <p>2 小学校4年生算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において, いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査において大領域の状況を平成29年度と比較すると, 「数量関係」では2ポイント上回ったが, 「数と計算」「量と測定」領域で3ポイント, 「図形」領域で2ポイント下回った。 <p>3 中学校2年生国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において, いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査の大領域で平成29年度と比較すると, 「読むこと」領域で3ポイント上回ったが, 「話すこと・聞くこと」領域で2ポイント下回った。また, 「読むこと」の領域において, 無答率が5割を超える小問が2問あった。 <p>4 中学校2年生数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調A問題及びNRT検査の結果において, 全国平均より高い水準であった。全国学調B問題においては, 平均正答率が全国よりも3ポイント下回った。 ・NRT検査の大領域で平成29年度と比較すると, 「資料の活用」領域で9ポイント下回った。また, 無答率が5割を超える小問が2問あった。 <p>5 中学校2年生英語</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学調及びNRT検査の結果において, いずれも全国平均より高い水準であった。 ・NRT検査の大領域で平成29年度と比較すると, 「聞くこと」「話すこと」「書くこと」領域で1ポイント上回った。 <p>○体力運動能力調査</p> <p>1 小学校5年生男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の体力調査結果で落ち込みが見られた学年であるが, 学年が上がるにつれて課題であった握力(筋力)の改善が図られ, 全国標準値を上回っている。 ・20mシャトルラン(全身持久力)と50m走(走力)は改善が図られてきているが, 全国標準値を下回っている現状である。 <p>2 小学校5年生女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度に落ち込んだものの, 全国標準値を上回っている種目が増え, 改善が図られている。 ・特に長座体前屈(柔軟性)と20mシャトルラン(全身持久力)が全国標準値を上回っている。 ・50m走(走力)の改善が図られてきているが, 全国標準値を下回っている現状である。 <p>3 中学校2年生男</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の1学年時に比べ, 大幅に体力の向上が図られている。 ・特に長座体前屈(柔軟性)とハンドボール投げ(投力)が全国標準値を上回っている。 ・20mシャトルラン(全身持久力)と50m走(走力)は改善が図られてきているが, 全国標準値を下回っている現状である。 <p>4 中学校2年生女</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の1学年時に比べ, 大幅に体力の向上が図られている。 ・特に長座体前屈(柔軟性)とハンドボール投げ(投力)が全国標準値を上回っている。 ・50m走(走力)と反復横とび(敏捷性)は改善が図られてきているが, 全国標準値を下回っている現状である。 | <p>○学力検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種学力調査を検証機会とした指導改善のCAPDサイクル(検証改善のサイクル)の構築のため, Cの段階としての目標の達成度の確認と, それを受けた取組内容の重点化を, 学校全体で組織的に取り組む体制の構築を推進する。また, 校内研究会では「考えを深める学び合い」の保障を目指した指導・助言を行い, 授業改善を促す。 ・学校における組織的な取組の評価を推進するため, 各小中学校で作成する「調査結果活用レポート」の内容を校内の全教職員で共有し, 活用を図るよう支援する。 <p>○体力運動能力調査</p> <p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通機関の関係や登下校時の問題もあり, 保護者の送り迎えが増えてきているが, 徒歩の登下校の呼びかけをし, 基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより, 各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。 ・研究発表会への実践では, 9年間を見通して「走る」に特化し, 研究を推進する。 <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に引き続き, 「走る」に特化し, 体力の向上を図っていく。 ・体育の授業や部活動を通して, ウォーミングアップの重要性を理解させ, 正しい身体の使い方を習得させることで, 基礎体力の向上を図っていく。 ・体力向上に係る実践を研究発表会や公開講座で広めることにより, 各学校に啓発しながら体力向上を図っていく。 |

| 小 施 策 | | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|-------|------------|--|--|
| 17-2 | 幼稚園教育の充実 | 施設整備の面では満足度が上がったが、教育内容についての保護者の満足度は昨年度より低下している。 | <p>少人数の園の特色を生かし、一人一人の子どもの性格や長所等を把握して、きめ細かな幼児教育を提供するとともに、園だよりやクラスだよりを中心に保護者への情報発信を図る。小学校隣接の特色を生かし、幼稚園教育と小学校教育の相互理解と円滑な接続及び交流活動の推進を図る。</p> |
| 17-3 | 高等学校教育の充実 | 就職率は100%であったが、第一志望の学校への進学及び国公立大学への合格率は目標を下回った。 | <p>他校視察や教員研修による教員の実践的指導力の向上を図る。岩手大学の教職員大学院と連携し、生徒が意欲を高め、主体的に活動する授業づくり及び対話による授業展開についての研修を実施し、生徒の意欲が引き出される授業の改善へとつなげる。</p> |
| 17-4 | 教職員研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・夏・冬の公開講座と研究発表大会のうち、必ず1回は参加するよう各学校へ呼びかけを行ったことにより、公開講座の参加人数は年々増加している。 ・参加人数は増えているが、長期休業中の開催に、学校から負担が大きいとの声も寄せられている。 ・アンケートの手法について、平成30年度はニーズ把握に重点を置きアンケートを実施したため、その根拠の把握は不十分であった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座について、夏と冬に開催としていたものを、夏のみで開催に変更する。 ・今後、より質の高い研修を行うためには、参加者の満足の内容も可能な限り把握したい。アンケートの方法について吟味する。 |
| 17-5 | 学校施設の整備・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度までに実施した6校に加え、新たに1校の大規模改修に着手できた。 ・学校を含む公共施設について、限られた財源を効果的に活用し計画的な保全の実施と施設の長寿命化を図り、次世代に大きな負担を強いることなく、「公共施設の保有の最適化」を推進し、持続可能な市民サービスの提供を目指す必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「長寿命化工事実施マニュアル」に基づき、事業費の精査を行い、限られた財源を効果的に活用することにより、将来にわたって様々なニーズに対応できる施設整備に努めていく。 ・「盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画」と整合を図りつつ、施設の複合化が円滑に進むよう関係団体、関係部署等と緊密な調整を進めていく。 |

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

| | | |
|----------|------------|-----------------|
| 基本目標 | 3 | 人を育み未来につなぐまちづくり |
| 施策 | 18 | 生涯学習の推進 |
| 施策主管部等 | 教育委員会 | |
| 評価責任者 | 豊岡 勝敏 教育部長 | |
| 評価シート作成者 | 大澤 浩 教育次長 | |

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

| 施策の目的(総合計画実施計画から転記) | 施策評価全体を踏まえた評価責任者意見 |
|--|---|
| 誰もが楽しみや生きがいを持ち、豊かに暮らすことができるように、いつでもどこでも学ぶことができる環境の構築を図る。 | 社会教育施設では、市民の生涯学習を支援するため、市民ニーズを捉え、多様な講座の開催に努めているところであるが、防災・環境など社会的な課題に関する講師への派遣依頼が減少し、依頼を受ける講師に偏りがあるなど、幅広く学習機会に接することができるように更なる創意工夫、改善が必要と考えている。 また、社会教育施設についても老朽化が進んでおり、市民が安全・安心に利用できる施設であることに加え、利便性の高い施設となるよう修繕・改修・整備を計画的に実施していく必要がある。 今後も、市民の学習意欲を高め期待に応えられるよう、ソフト・ハード両面から、生涯学習推進のための環境づくりに努める必要がある。 |

施策の概要

| 主な取組内容 |
|--|
| 市民ニーズを把握しながら、各公民館等において、家庭教育支援・青少年教育・成人教育・高齢者教育・芸術文化活動・生涯学習推進・地域連携など幅広いテーマで学習機会の提供に努めた。 また、菟川地区公民館の駐車場整備等を行うとともに、市立図書館の大規模改修等に係る基本設計業務委託の予算化を図り、市民の良好な学習環境の整備に努めた。 |

| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | 意図(対象をどのようにしたいのか) |
|--------------------|-------------------------|
| 市民 | 意欲的に学習活動に取り組む。 |
| 社会教育施設 | 計画的な整備や修繕により良好な環境が保たれる。 |

施策の成果指標の状況・評価

| 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | | 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | |
|--|------|-------|------|---|------|-----------|-----|-------|--|-------|--|
| 指標① | 単 位 | 目指す方向 | | | | 指標② | 単 位 | 目指す方向 | | | |
| まちづくり評価アンケート調査「この1年間に何らかの学習をした」と答えた市民の割合 | % | ↗ | | | | | | | | | |
| 当初値 (H25) | 40.6 | R1目標値 | 43.9 | R6目標値 | 47.2 | 当初値 (H25) | | R1目標値 | | R6目標値 | |
| | | | | <p>△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)</p> <p>・社会教育施設における学習講座は、多くの参加が期待できる市民が学びたいテーマだけでなく、防災や環境など社会の変化に応じて学んでほしいテーマとのバランスを図りながら実施する必要があることや、講座開催が日中に偏っていることが、主催講座の参加者が伸びない要因と思われる。 ・学習活動の機会や時間の確保が難しい働き世代・子育て世代の講座参加者が少ない状況にある。 ・ライフスタイルの多様化、情報通信機器の発達等により、生涯学習に対する市民意識が変化していることが背景にあるものと考えている。</p> | | | | | | | |

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している)、○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み)、△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

| 小 施 策 | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|-------------------|--|---|
| 18-1 社会教育の充実 | ・学びの循環推進事業では、多彩な講座メニューを用意し、市民の継続的な学習活動に活用されているが、依頼講師に偏りがあるほか、社会的課題をテーマとする講座への講師派遣が減少している。 ・家庭教育支援や青少年教育など社会教育事業の提供により、市民の学習機会の充実が図られるとともに、中学生リーダーや新成人のリーダーが育成されている。 | ・社会教育に関する事業の効果的な周知方法を検討するとともに、家庭教育支援や青少年教育など社会教育に係る学習機会の充実と団体の育成支援を継続する。 |
| 18-2 社会教育施設の整備・充実 | ・菟川地区公民館の駐車場整備等を行い、移転整備事業を完了した。また、市立図書館の大規模改修等に係る基本設計業務委託の予算化を進めた。 ・老朽化の進む他の社会教育施設の計画的な改修が必要となっているほか、新たな施設整備要望への対応も必要となっている。 | ・老朽化した社会教育施設の計画的な改修に努めるとともに、「公共施設保有の最適化と長寿命化のための基本方針」との整合を図りながら、市民ニーズに対応した新たな施設整備に取り組む。 |

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

| | | |
|----------|----------------|-----------------|
| 基本目標 | 3 | 人を育み未来につなぐまちづくり |
| 施策 | 19 | 社会を担う人材の育成・支援 |
| 施策主管部等 | 子ども未来部 | |
| 評価責任者 | 藤澤 忠範 子ども未来部長 | |
| 評価シート作成者 | 石橋 浩幸 子ども未来部次長 | |

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

| 施策の目的(総合計画実施計画から転記) | 施策評価全体を踏まえた評価責任者意見 |
|--|---|
| <p>将来を担う若い世代や女性がライフスタイルに合わせ、社会のさまざまな場面で活動できるように、人材の育成や情報の提供などの支援に取り組む。</p> | <p>「ジョブカフェいわて」や「もりおか若者サポートステーション」と連携を図りながら、若い世代や女性が活躍できるよう、今後も様々な支援を展開していきたい。</p> |

施策の概要

| 主な取組内容 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 県が設置する「ジョブカフェいわて」に、市事業としてカウンセラーを配置し、若者の就業支援を行った。 県が設置する「もりおか若者サポートステーション」において、市事業としてボランティア活動の場の提供や臨床心理士によるカウンセリングなどを実施し、若年無業者の就業に向けた支援を行った。 市役所でのインターンシップを希望する大学生等の受入れを行った。 高校生が市内の民間企業でのインターンシップを経験できるよう、参加企業の拡充を図るとともに、高校生とのマッチングを行った。 高校生を対象に、職業観の形成や地元定着の意識付けを図るための研修を行った。 「高校生地元定着支援事業」において、高校生や高校の教員を対象にした企業見学会を開催した。 地元企業で働く若手社員の仕事の様子や仕事を選んだきっかけなどを紹介し、地元で働き暮らすことイメージしやすくすることで、将来の地元定着を目的とした冊子「モリオカソトカメラ」を作製し、盛岡広域管内の高校1年生に対して配布した。 若者の地元定着を支援するため、就職後3年目までの若手社員を対象に、コミュニケーションスキル向上研修、キャリア開発研修を実施した。 |

| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | 意図(対象をどのようにしたいのか) |
|--------------------|-------------------|
| 若い世代の市民 | 社会で活躍できるようになる。 |

施策の成果指標の状況・評価

| 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | | | | | |
|---|--------------------------------|-------|-------|--|--------|-------|--------|-------|--------|
| 指標① | 地域若者サポートステーションの支援を受けて就職を決定した人数 | 単 位 | 目指す方向 | <p>△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)</p> <p>各関係機関や病院との連携が図られており、延べ利用者数も前年度並を維持し、一定数就職することはできたものの、目標値の半分以下にとどまっている。</p> | | | | | |
| | | 人 | ↑ | | | | | | |
| 当初値(H27) | 116 | R1目標値 | 140 | | | | | R6目標値 | 140 |
| <p>※H28に「進路を決定した人数」から「就職を決定した人数」に変更</p> | | | | <p>◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)</p> <p>若手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行っているが、県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることもあり、利用者は目標を大きく上回っている。</p> | | | | | |
| 指標② | ジョブカフェいわての利用者数 | 単 位 | 目指す方向 | <p>◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している)</p> <p>若手県が設置する「ジョブカフェいわて」において、就職等に関するカウンセリング等の業務を行っているが、県事業との連携により、きめ細やかなカウンセリングが実施できていることもあり、利用者は目標を大きく上回っている。</p> | | | | | |
| | | 人 | ↑ | 当初値(H25) | 29,529 | R1目標値 | 30,000 | R6目標値 | 30,000 |
| | | | | | | | | | |

進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している), ○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み), △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

| 小 施 策 | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|----------------|--|---|
| 19-1 若い世代の活躍支援 | <ul style="list-style-type: none"> 若年無業者となる背景は、心身の健康上の理由、人間関係に関する不安、多種多様で複雑な要因があり、家族が公にすることを避ける例も多いため、支援を必要とする若年無業者の全容把握は困難である。もりおか若者サポートステーションの新規登録者は前年と比べて増加しており、延べ利用者数も前年並みを維持しているが、利用者の抱える問題が複雑化していることから、一人の支援に対し、以前に比べて時間を要している。 「ジョブカフェいわて」は、若年者の就労に関する相談の拠点として十分に認知されている。 | <p>若年者は今後の社会を担う貴重な人材であり、就労や職場定着は重要な課題となっていることから、引き続き若年者や若年無業者の就労支援を行うものであるが、「もりおか若者サポートステーション」については、更なる利用促進のため、周知・PRに努める。</p> |

【施策評価(平成30年度実績評価)】

施策の総合計画における位置付け

| | | |
|----------|-------------|-----------------|
| 基本目標 | 3 | 人を育み未来につなぐまちづくり |
| 施策 | 20 | 地球環境の保全と自然との共生 |
| 施策主管部等 | 環境部 | |
| 評価責任者 | 菅原 英彦 環境部長 | |
| 評価シート作成者 | 小原 勝博 環境部次長 | |

「施策の目的」と「施策評価全体を踏まえた評価責任者意見」

| 施策の目的(総合計画実施計画から転記) | 施策評価全体を踏まえた評価責任者意見 |
|--|--|
| 地球環境や豊かな自然を次世代に引き継ぐため、地球温暖化対策やごみの減量化・資源化の推進、水や緑の保全などに取り組み、地球環境の保全と自然との共生を推進する。 | ごみの発生抑制、再利用及び再生利用(3R)推進により、ごみの排出量は着実に減少しているが、事業系ごみの減量・資源化については、古紙の搬入規制など早期に実効性のある施策を展開する必要がある。 地球温暖化対策、自然環境保全について、講座を多数開催するなど施策の推進に努めているところであり、今後も再生可能エネルギーの拡大、市民の省エネ行動の啓発など効果的に進める必要がある。 |

施策の概要

| 主な取組内容 |
|--|
| <p>【自然の保護と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道9路線について、ガイドマップを配布及び環境部ホームページ上に詳細なコースマップや花暦、鳥暦などを掲載している。また、適切な維持管理を行い、利用者の利便及び安全確保に努めた。 <p>【環境を大切に作る心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講座を23回開催したほか、環境部ホームページや広報を活用し環境啓発を行った。 <p>【資源循環型社会の形成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てのコミュニティ地区ごとの家庭ごみ排出状況を把握し、住民懇談会を実施するなど廃棄物の発生抑制、資源の再利用・再活用などに取り組んだ。 ・廃棄物処理の広域化を推進し、構成8市町でごみの減量や廃棄物のリサイクルについて検討した。 <p>【地球温暖化対策の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡市住宅用太陽光発電システム等設置費補助金」を実施し、住宅に太陽光発電システム等の普及を図った。 ・「盛岡市における木質バイオマスエネルギーの地域循環型システムの構築に関する研究」を岩手大学と共同で実施した。 |

| 対象(誰(何)を対象として行うのか) | 意図(対象をどのようにしたいのか) |
|----------------------|--|
| 身近な自然、森林・水源、その他(動植物) | 自然が守られる。 |
| 市民・事業者 | 地球環境の保全の大切さが理解され、環境に配慮した行動が促進される。 温室効果ガスの排出量削減が図られる。 資源の再利用、再生利用に取り組む。 |
| 廃棄物・資源 | 廃棄物の発生が抑制され、資源の再利用、再生利用が促進される。 |
| — | — |

施策の成果指標の状況・評価

| 実績値の推移 | | | | 進捗の評価 | |
|--|--|----------|------------|------------------------------|---------|
| 指標① | まちづくり評価アンケート調査「自然が守られていると思う」と答えた市民の割合 | 単 位 % | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 80.8 | R1目標値 | 83.0 | R6目標値 | 86.0 |
| | | | | | |
| <p>平成28年度まではほぼ目標値を達成していたが、平成29年度は実績値が当初値を下回り、平成30年度も目標達成には至っていない。実施した事業については従来と同様の事業を実施しているが、近郊自然歩道設置総延長等が目標に達していないほか、「自然環境が保全されている現状」の周知が不十分であったことが考えられる。 頻発する自然災害や地球温暖化に関する報道などが影響していることも思料されるため、盛岡市環境部のサイト「ecoもりおか」のコンテンツの充実や更新頻度を増やし環境に関する情報提供に努めているところであるが、さらに情報提供の仕方など対応方法の検討が必要である。</p> | | | | | |
| 指標③ | ごみ総排出量 | 単 位 t | 目指す方向 ↘ | ◎ 非常に順調に進捗している(R1目標値を達成している) | |
| 当初値(H25) | 118,398 | R1目標値 | 111,170 | R6目標値 | 105,880 |
| | | | | | |
| <p>※盛岡市一般廃棄物処理基本計画の改定に合わせてH28に目標値を変更している</p> | | | | | |
| <p>進捗の評価(3段階): ◎ 非常に順調に推移している(R1目標値を達成している)、○ 順調に推移している(R1目標値を達成する見込み)、△ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難)</p> | | | | | |
| 指標② | まちづくり評価アンケート調査「CO2の発生抑制やごみの減量など、地球環境にやさしい生活を常に心がけている」と答えた市民の割合 | 単 位 % | 目指す方向 ↗ | △ 遅れが生じている(R1目標値の達成が困難) | |
| 当初値(H25) | 80.7 | R1目標値 | 83.0 | R6目標値 | 86.0 |
| | | | | | |
| <p>前年度より実績値が上昇した。市の地球温暖化対策実行計画の改定をはじめ、異常気象やそれに伴う自然災害が頻発していること、地球温暖化に関する報道も多かったことなどにより、地球温暖化への関心が高まったことが要因として考えられる。 しかし、R1目標値には達していないことから、今後も、地球温暖化対策としてのCO2削減の重要性や再生可能エネルギー導入の推進、ごみの減量など、取り組みやすい内容を分かりやすく市民に情報発信し、「地球環境にやさしい生活」について市民の意識を高めていく必要がある。</p> | | | | | |
| 指標④ | | 単 位 | 目指す方向 | | |
| 当初値(H25) | | R1目標値 | | R6目標値 | |

小施策評価を踏まえた「成果点・問題点」と「今後の方向性」

| 小 施 策 | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|---------------|--|--|
| 20-1 自然の保護と活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・近郊自然歩道や登山道の情報を提供するとともに適切な管理を行い、市民が自然に親しむ場所を提供することができた。 ・玉山地域の近郊自然歩道について検討中であるが、関係者との協議に時間を要している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林や河川などのかけがえのない自然や多様な生物が息息する環境を適切に守り、次世代に引き継ぐとともに、自然に親しむ機会を増やし、より多くの市民が自然を感じられる環境づくりを進める。 |

| 小 施 策 | | 成果点・問題点 | 今後の方向性 |
|-------|---------------|---|--|
| 20-2 | 環境を大切にできる心の育成 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習講座やエコライフ推進イベントの参加者数、環境部ホームページの閲覧者数が増加傾向にある。 ・環境啓発を広く行うため、環境学習講座や環境部ホームページの内容を充実させる必要がある。 ・地球環境にやさしい生活を常に心がけている市民の割合が上昇と下降を繰り返しており、R6目標への道筋が見えない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民や事業者に環境保全に向けた取り組みやすい情報を分かりやすく提供するとともに、環境学習講座の開催や環境啓発の周知を行い、環境を大切にできる市民・事業者を育成する。 |
| 20-3 | 資源循環型社会の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭ごみ(資源を除く)の減量に向けての各種事業により、分別排出及び資源化に対する市民の意識が高まり、ごみ総排出量、1人1日当たりの排出量とも着実に減少している。 ・事業系ごみの減量・資源化を促進するための具体的な方策を検討する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民・事業者・行政の三者が協働して、廃棄物の発生抑制、資源の再利用・再生利用などの取組をさらに進めることにより、「循環型社会」の推進を目指す。 ・事業系ごみの搬入規制導入により、資源化の推進及びごみ総排出量の一層の削減を目指す。 |
| 20-4 | 地球温暖化対策の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ・住宅用太陽光発電システム等への補助により、138件の太陽光発電システムが設置された。 ・岩手大学と共同研究した木質バイオマスエネルギーの地域循環型システムの構築について、具体的な事業化を検討する必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガスの排出量削減のため、太陽光、風力、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及促進を図るとともに、市民や事業者への省エネ行動の啓発などを進める。 |